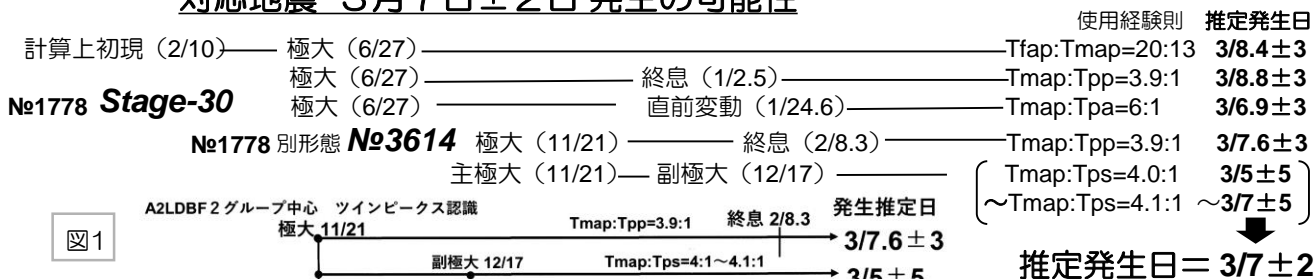


※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は30年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。2024.1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましては、2023.12/31の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりましたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。皆様の本観測研究に対するご支援（情報配信参加）を賜りたくお願い申し上げます。

## No1778 長期継続前兆変動続報 17年 7ヶ月継続した前兆変動が 短時間楕円変動を除いて 別形態No3614も含め 全て終息 対応地震 3月7日±2日 発生の可能性

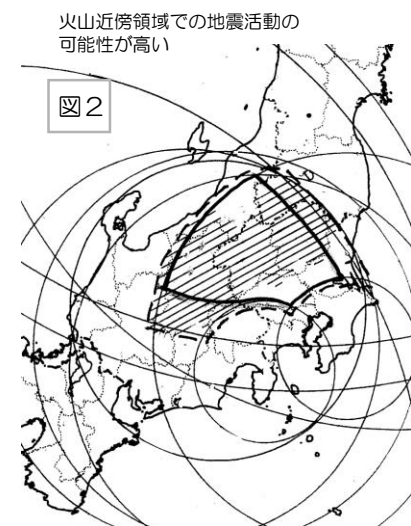


◆No1778別形態No3614前兆変動も図1のとおり、終息認識です。最近観測された火山近傍地殻地震前兆並びに噴火型前兆変動は全てNo1778関連の可能性が高いと考えられます。図1に▲印で入れてあります。

◆現在全観測点で1時間程度の楕円変動が時折出現しているだけで、ついに17年7ヶ月継続したNo1778の前兆変動は全て終息致しました。上のとおり、3/7±2対応地震発生の可能性が考えやすい状況です。

◆2月下旬以降に噴火型前兆変動が複数日観測された場合は、対応地震活動に伴い、震央付近の火山で噴火活動の可能性も考えられますが、現状ではまだ考えられません。

◆現在の推定を覆す変動が観測されない限り、または3/7±4に次のステージ極大が出現しない限り、左記の推定が考えられます。最大限の対策をお願い申し上げます。なるべく多くの方に本情報を読んで頂けたら幸いです。



●推定領域：図2の点線領域内＝大枠推定領域  
図2の太線領域内＝可能性が考えやすい  
図2の斜線領域＝火山近傍で考えやすい

●推定規模：M8.0±0.3 または複合地震  
複合の場合はM7以上地震の断層長LkmがLog L=0.5M-1.8 (Utsu.)式で110～150km程度となる様な複合地震活動の可能性 (例：M7.1±0.3+M7.3±0.3等)

●推定時期：3月7日±2 (最大誤差3月7日±4)  
3月7日 or 8日の可能性高い  
※3/7±4に初現または極大が出現して、次のステージに移行しない場合に限る

○推定地震種：震源浅い日本列島陸域地殻地震  
○推定発生時刻：午前9時±2 or 午後6時±3 (複合地震では当てはまらない)

各推定内容の根拠は以下のとおり

- 推定領域：各変動の推定影響局位置から経験則を使用して作図し、重複領域を求め推定  
火山近傍地震前兆が多数観測されたことから、火山近傍領域に震央の一部がある可能性が考えやすい
- 推定規模：13回出現したPBF・ランダム減衰型BF変動の各出現継続時間計の最長値(h)より Log PBF(h)=0.5M-1.8 経験式より推定
- 推定時期：Stage-30の各変動変化時期を時間変化経験則を使用して推定  
○推定地震種：最大30の観測装置に変動出現＝陸域地震を示す 長期にわたる変動継続＝日本列島の地殻地震を示す  
○推定発生時刻：複数観測された基線増大(BT)変動の日々の共通変化(出現開始・終息)時刻より推定  
※31年間の観測で初めて体験する17年を超える長期継続特殊前兆変動のため、推定に誤りがある可能性は否定困難です。